

ミーティングリポート

今回はスポーツ指導者の持つ疑問点というテーマで指導者、医療関係者、トレーナーという立場を超えて様々な意見交換が出来るような会になりました。

－ 前回の主な内容 －

<スポーツ指導者の疑問点>

スポーツネットミーティングは、スポーツ指導者・ドクター・理学療法士等医療関係者・トレーナーなどスポーツの現場に携わる方々の交流の場として始まりました。種目、立場を超えたコミュニケーションの場を作る事で、選手に良いサポート体制を作っていきたいと考えております。

そこで今回は「スポーツ指導者の持つ疑問点」というテーマで小グループ（指導者・医療関係者・トレーナー）を作り、それぞれテーマをもって話しました。



テーマ：選手との接し方

選手に話しをする時でも、指導者の方は選手の目や態度・プレーで理解しているかを見ています。また、選手が話に集中出来るように話すタイミングや場所選びにも気がついています。

バスケットボール指導者からは試合時タイムアウトでは座らせた方がいいのか、立たせたままの方がいいのか、どちらが良いのかは選手が開ける状態にあるのかを察知して選択していると言っておられました。指示の出し方や切り替え方は瞬時に判断して、次のプレーパフォーマンスを崩さない為にはどう伝えることが良いのかは常に考えておられます。



怪我をした選手に対する対応では、医療関係者やトレーナーは普段の動きから怪我に繋がっているような動きをしていないかを確認し、歩き方や普段の姿勢もチェックしています。また話しをしている時に目を見て話しをしているか、納得して聞いているかなどにも重点をおいています。怪我をして前向きに取り組んでいる選手とそうでない選手がいますので、いかに向きあえるかが取り組むスタートになります。

指導者からは選手が怪我をした時に試合に出場出来るか出来ないかの判断をする際に、ドクター・医療関係者・トレーナーの存在は大きいという意見が出ました。医療関係者からは怪我の状態と目標としている試合の時期やタイミングなど競技の情報を診察時等に言ってもらう方がアドバイスしやすく、全力で怪我のサポートも出来るとの意見を頂きました。そのようなアドバイスは選手の安心感や自信にも繋がると思います。

逆に取り組みに後ろ向きな選手には、医療関係者からは怪我や競技のこと以外から話しをしていき悩みの種を探しながら話の切り口を探してコミュニケーションを取ろうと思いがけているとのことでした。

指導者から共通点を探し、相手のことを理解していかないと選手とコミュニケーションは取れないという意見には参加者からも納得の声があがっていました。

今回は各々の立場からの見方や意見をグループで話し合ってもらい、参加者からもお互いの意見が直に聞けるポイントや視野が広がったとの声も頂きました。また、このように交流の場を広げて行きたいと思えます。

参加者：高校バスケットボール指導者1名、中学野球指導者2名、中学バスケットボール指導者2名、理学療法士4名、地域運動指導者3名 トレーナー1名 合計13名

<<懇親会申込書>>

懇親会に参加申し込みます。

御芳名		所属	
御連絡先			
参加人数			

メール (info@bb1992.com) 又は FAX (0774-24-3644) にて11月27日(火)迄にご返送下さい。